

## 法律・政治

松坂佐一著

### 民法解釈の基本問題

〔品切〕A5判・466頁・6,800円

民法解釈の基礎理論を、科学としての法学と解釈・法学的ヘルメノイテイク、類型論、トピック、自由法学、法的経験の現象学的解明などの諸問題を通して究明する。民法とともに40年を歩んだ著者の学識と思考の結晶である。

〔1985〕978-4-930689-41-2

皆川修吾著

南山大学学術叢書

### Supreme Soviet Organs

菊判・366頁・5,000円

Functions and Institutional Development of Federal and Republican Presidia and Standing Commissions. 本書は、連邦および共和国最高会議の歴史的背景、その理想像と現実、制度的発展過程を、とくに幹部会と常任委員会の運営について実証的に分析し、ソ連政治の多元化を示唆。

〔1985〕978-4-930689-30-6

友岡敏明著

南山大学学術叢書

### ジョン・ロックの政治思想

—“伝統”と“革新”の一断面—

〔品切〕A5判・442頁・4,500円

プロテスタントのキリスト教思想家としてのジョン・ロックを、彼の思索者としての成長過程を追いながら浮き彫りにし、同時に政治思想家としてのロックの歴史的位置を彼以前の三大思想家との対質を通して明らかにする。新資料も駆使した、ロック研究最先端の書。

〔1986〕978-4-930689-47-4

佐々木雄太著

### 三〇年代イギリス外交戦略

—帝国防衛と宥和の論理—

〔RA叢書〕A5判・414頁・6,800円

30年代イギリス外交史の実証研究は、1967年の公文書法改正により新しい段階を迎えた。本書は、欧米におけるこの新動向に対応して、イギリスの閣議議事録、覚書、外務省外交文書等一次資料を駆使して、第二次大戦に至るイギリス外交の政策決定過程を精緻に分析する。

〔2022(1987)〕978-4-8158-1079-5

松坂佐一著

### プラトンと法律

—ギリシア法思想への案内—

〔品切〕A5判・214頁・3,600円

社会契約・自然法・三審制度など、後世法思想の萌芽を多数含む哲学者プラトンの諸著作を中心に、難解なギリシア法思想を平易に解説する恰好の案内。〔目次〕1章「初期ギリシアの法思想（テミス／ディケー／社会契約…）」、2章「プラトンの法理論（刑法／司法制度／契約及び財産…）」

〔1987〕978-4-930689-77-1

平松義郎博士追悼論文集編集委員会編

### 法と刑罰の歴史的考察

—平松義郎博士追悼論文集—

〔品切〕A5判・566頁・10,000円

近代大阪で困窮者を西国に斡旋したおこし奉公人制度・入り組み支配地の追放刑の意外な実態・火刑の執行方法・放火罪における「燃え上り説」の歴史的考察など、法制史・刑法等の一線研究者が18編の論文で綴る法と刑罰の社会史。

〔1987〕978-4-930689-79-5

松井芳郎／木棚照一／加藤雅信編

## 国際取引と法

〔品切〕A5判・400頁・4,500円

本書は国際貿易法制、国際投資法制、国際化時代における法の適用と国際私法、国際化時代の紛争解決手続、国際化時代の刑事法と国際法の五部構成により、国際化時代を迎えて新しい課題に直面する国際取引法を体系的具体的に考察して実務上の指針を提示する。

〔1988〕978-4-930689-91-7

服部育生著

## 企業結合と独禁法

—比較法的考察—

〔品切〕A5判・312頁・5,500円

近時、対米貿易摩擦およびEC統合への対応策として海外進出の必要に迫られた日本企業による外国企業の買収が急増しつつある。本書は、このような企業結合に対する独禁法上の規制を、アメリカ法・西ドイツ法を中心に比較法的視点から包括的に考察して、日本法への展望をも拓く。

〔1990〕978-4-8158-0144-1

草間秀三郎著

## ウィルソンの国際社会政策構想

—多角的国際協力の礎石—

A5判・336頁・5,500円

環境問題、途上国援助、地域紛争等、地球規模のグローバルな問題解決のために、近年国際連合の新機能としてその重要性が増している多角的国際協力を、ウィルソンの国際社会政策構想の発展として実証的に跡づける。ウィルソンの理想を現代的観点から捉え直す。

〔1990〕978-4-8158-0145-8

ステアー・ソサエティ編 戒能通厚／平松紘／角田猛之編訳

## スコットランド法史

〔品切〕A5判・244頁・3,500円

本書は、イングランド法と並んでイギリス法を形成する大きな柱でありながら我国で不当に無視されてきたスコットランド法の最も信頼出来る概説である。膨大な事項解説等訳者苦心の付録は法研究者のみならず社会思想史、歴史研究者にスコットランド啓蒙の奥行きを伝えるだろう。

〔1990〕978-4-8158-0146-5

山田公平著

## 近代日本の国民国家と地方自治

—比較史研究—

〔品切〕A5判・620頁・5,500円

19世紀後半の国際条件の中でわが国の国民国家の構築は天皇制国家として実現された。本書は、その政治的基礎構造たる明治地方自治を同時代のヨーロッパ・アジアの制度状況との比較において検討し、制度継受関係、日独比較、植民地地方制度の形成等未開拓の領域に新生面を拓く。

〔1991〕978-4-8158-0149-6

青竹正一／浜田道代／山本忠弘／黒沼悦郎編

## 現代企業と法

—企業組織・取引・有価証券—

A5判・498頁・8,000円

経済社会の環境変化に伴い、現代企業は組織の面でも取引方法の面でも、さまざまな新しい法的諸問題に直面している。本書は、このような観点から現代企業法の課題となっている企業組織と活動にかんする法規制等の諸問題を、判例・学説の推移を踏まえて検討する最新の論考集成。

〔1991〕978-4-8158-0165-6

田口富久治著

## 政治学講義

〔品切〕A5判・336頁・2,800円

本書は、社会科学方法論そして／もしくは社会科学の理論的枠組として、イギリスの哲学者バスキアの社会活動の変形モデルや、同じくイギリスの社会学者ギデンズの構造化の理論を用い、近・現代の政治の意味、その構造と実践のからみ合いを、体系的に展開している。

〔1992〕978-4-8158-0196-0

福田茂夫／義井博／草間秀三郎著

## 増補 二〇世紀国際政治史

四六判・316頁・2,200円

第二次世界大戦を視点の中心に置いて、第一次世界大戦から90年代に至る国際政治の流れを明快に跡づける通史。その時々国際政治状況の中で、各国の政治家と民衆はどんな選択をどのような基準で行なったのか。ソ連崩壊、湾岸戦争からクリントンの登場までを増補する。

[1993] 978-4-8158-0202-8

石川一三夫著

## 日本的自治の探求

—名望家自治論の系譜—

四六判・300頁・3,000円

福沢諭吉、陸羯南、徳富蘇峰、植木枝盛等、近代黎明期の知識人は、日本の地方自治問題をどのように考えたのか——西欧的市民思想をバックにした日本の自治の探求、官治と自治の問題点、日本の官僚制の弊害克服の努力等——を明らかにして、日本の地方自治思想の原点と系譜を確認する。

[1995] 978-4-8158-0262-2

佐々木雄太著

## イギリス帝国とスエズ戦争

—植民地主義・ナショナリズム・冷戦—

A5判・324頁・5,800円

1956年のスエズ侵略戦争を中心テーマに、第二次大戦後のイギリスの中東政策の展開過程とアラブ・ナショナリズムとの関係、イギリスとエジプトとの対立の深化とスエズ戦争への政治過程、中東政策ならびにスエズ戦争をめぐる英米関係の展開とイギリスの凋落過程を歴史的に考察する。

[1997] 978-4-8158-0313-1

M. ウェーバー著 雀谷幸隆／小島定訳 古典翻訳叢書

## ロシア革命論 I

A5判・354頁・6,000円

ウェーバーは1905年革命の報に接するや、数カ月でロシア語をマスターして二つの長大な論文をもした。本書はその第一論文と第二次革命後執筆の短い第三論文を取載。進る学問的情熱をもって書かれた中期の傑作論文であり、ソ連崩壊後のロシア再考のために逸することのできない古典。

[1997] 978-4-8158-0317-9

M. ウェーバー著 肥前栄一／鈴木健夫／小島修一／佐藤芳行訳 古典翻訳叢書

## ロシア革命論 II

A5判・464頁・8,000円

ロシア専制政府の立法活動の特徴を暴いた、全く新しいロシア革命論。法対行政規則という法社会学的視点に立脚し、豊富な資料に基づいた、ロシア政府の「二重帳簿」政策についての鋭利で重厚な叙述は、優れた歴史研究であるとともに、開発独裁成り立論とも言うべき論点を提出している。

[1998] 978-4-8158-0345-2

石井三記著

## 18世紀フランスの法と正義

A5判・380頁・5,600円

法の専門家主義と素人主義の対抗。——ヴォルテールの関与した冤罪事件、ベッカリーアの『犯罪と刑罰』の運命、陪審裁判や死刑廃止の議論など、啓蒙から革命期までの刑法改革の潮流を、制度・事件・思想・法曹等の多様な視角から描き、底流をなす法観念の転換を明らかにした新しい法制史。

[1999] 978-4-8158-0359-9

下川 潔著

## ジョン・ロックの自由主義政治哲学

A5判・392頁・6,000円

分析的テキスト解釈と厳密な思想史的手法によって、プロパティ概念、寛容概念などの通説的理解を改め、古典的自由主義の基本原理の把握に新たな道を拓くとともに、ロック自由主義理論の核心をなす「政教分離」「所有権」などの価値を明確に示し、その批判的継承を試みる。

[2000] 978-4-8158-0377-3

高橋一彦著

## 帝政ロシア司法制度史研究

—司法改革とその時代—

A5判・424頁・9,000円

ロシアに近代的な司法制度を導入した試みと言われる1864年の司法改革を軸として、帝政ロシアの司法制度の展開課程を一次史料に基づき分析——これによって制度史研究の欠落を埋め、従来の「非法社会」というイメージには取まりきれない帝政末期のロシア法の動態的な姿を提示する。  
〔2001〕978-4-8158-0399-5

ロバート・D. エルドリッチ著

## 沖縄問題の起源

—戦後日米関係における沖縄 1945-1952—

A5判・378頁・6,800円

戦後日米外交の焦点となり、今日なお日米関係の棘となっている沖縄問題の原点を政治・外交史的に解明した最新の成果。日米の関係者へのインタビューや膨大な新資料に基づき、戦後沖縄の地位を決定づけた講和条約第3条の形成過程を詳述。  
**アジア・太平洋賞特別賞、サントリー学芸賞受賞**  
〔2003〕978-4-8158-0459-6

安田信之著

## 開発法学

—アジア・ポスト開発国家の法システム—

A5判・384頁・4,800円

開発国家体制の後退により、転機を迎えたアジア諸国の法制度をめぐる開発協力のあり方を、基礎的な方法論から、良い統治、コミュニティ・ジャスティス、法整備支援などの今日的課題までを含めて体系的に叙述、初学者から専門家までの幅広い要請に応える決定版。  
〔2005〕978-4-8158-0503-6

梅田百合香著

## ホップズ 政治と宗教

—『リヴァイアサン』再考—

A5判・348頁・5,700円

宗教抗争から近代国家へ——近代政治学を生み出した『リヴァイアサン』の宗教論を徹底的に解説、歴史的コンテクストに即した解釈で、国家論の理解に新たな光をなげかける。内面の「自由」を確保しつつ、宗教問題の解決を導こうとするホップズ国家論の真の課題に迫った画期的労作。  
〔2005〕978-4-8158-0523-4

小杉 泰著

## 現代イスラーム世界論

A5判・928頁・6,000円

わが国の現代イスラーム研究をリードする著者が、中東をはじめとする現代イスラーム世界の成立と展開、激動の現在と今後の展望を、国際社会との関係の中、思想と政治・社会・経済の動態的連関を軸に捉え、イスラーム復興が今日の世界にもたらした巨大な運動の全体像を描ききった労作。  
〔2006〕978-4-8158-0535-7

眞壁 仁著

## 徳川後期の学問と政治

—昌平坂学問所儒者と幕末外交変容—

A5判・664頁・6,600円

忘却された儒者、古賀家三代の知的・政治的所産を徹底した史料調査により解明。学問所儒学の停滞したイメージを覆すとともに、日本近代外交黎明期の姿を鮮明に描き出し、江戸後期思想史・政治史・外交史の大幅な書き換えを迫る画期的成果。  
**角川源義賞、徳川賞受賞**  
〔2007〕978-4-8158-0559-3

川島真／服部龍二編

## 東アジア国際政治史

A5判・398頁・2,600円

前近代の「伝統的」国際秩序の変容から、今日の東アジア国際政治までを一瞥、最新の研究成果を踏まえた確かな叙述で、東アジア国際政治の主旋律を描き出すとともに、多彩な論点から東アジア地域のダイナミックな変動過程を内容豊かにとらえた、画期的な通史テキスト。  
〔2007〕978-4-8158-0561-6

曾我謙悟／待鳥聡史著

## 日本の地方政治

—二元代表制政府の政策選択—

A5判・382頁・4,800円

比較政治制度論からのアプローチにより、戦後の議会と首長の個別公選制下における地方政府の政策選択の大きな変化を実証、大規模なデータ分析と事例分析をもとに、地方政府の政治的ダイナミクスを描出。地方政治論に新たなフロンティアを拓く画期的論考。**日本公共政策学会著作賞受賞**

〔2007〕978-4-8158-0571-5

木村 幹著

## 民主化の韓国政治

—朴正熙と野党政治家たち 1961～1979—

A5判・394頁・5,700円

野党政治家の挑戦と挫折、そして金泳三・金大中ら新しい世代の登場——歴史的成功事例といわれる韓国の民主化過程の苦難を、朴正熙政権期の徹底の見直しにより描出、民主化の成否を分けた前提条件を指し示し、脱植民地化過程の政治的困難をも捉えた刮目の政治分析。

〔2008〕978-4-8158-0572-2

遠藤 乾編

## ヨーロッパ統合史 [増補版]

A5判・402頁・3,200円

政治・経済から軍事・安全保障、規範・社会イメージにまたがる複合的な国際体制の成立と変容を、近年公開の進んだ膨大な史料に基づいて描き出し、今日にいたる統合の新たな全体像を提示。ユーロ危機など、ヨーロッパ統合の行方を左右する、最近の動きも加えた、待望の増補版。

〔2014〕978-4-8158-0767-2

遠藤 乾編

## 原典 ヨーロッパ統合史

—史料と解説—

A5判・804頁・9,500円

ヨーロッパの統合という困難なプロセスはいかにして進められてきたのか。政治・経済、軍事・安全保障、規範・社会イメージにわたる複合的な国際体制の形成過程を軸に、今日にいたる統合の全容を、多角的な原典史料に語らせる待望の史料解説集。ヨーロッパ統合の生きた姿が浮かび上がる。

〔2008〕978-4-8158-0601-9

浅野豊美著

## 帝国日本の植民地法制

—法域統合と帝国秩序—

A5判・808頁・9,500円

忘れられた植民地での居留地・治外法権廃止問題を手がかりに、帝国規模での法制度の創出過程とその全体像を初めて解明、国際秩序、地域主義、帝国主義の相克を法秩序の展開から捉えて、帝国の勃興と解体、さらに戦後日本の誕生に至る過程をも描き出す。**吉田茂賞、大平正芳記念賞受賞**

〔2008〕978-4-8158-0585-2

田所昌幸著

## 国際政治経済学

A5判・326頁・2,800円

国際政治と国際経済にまたがる広大な領域に挑み、しかもそれを一つの一般理論で切るのではなく、社会科学の古典や歴史的知見に学びながら、多角的記述とポイントをおさえた資料によって複雑なリアリティを捉えていく傑作テキスト。**政治研究櫻田會奨励賞受賞**

〔2008〕978-4-8158-0587-6

小川浩之著

## イギリス帝国からヨーロッパ統合へ

—戦後イギリス対外政策の転換とEEC加盟申請—

A5判・412頁・6,200円

EUの今日の発展を決定づけた戦後イギリス最大の外交転換を、帝国＝コモンウェルス、英米特殊関係、対ヨーロッパ関係の困難に満ちた再編過程を軸に、徹底的な資料の博搜により解明、EFTA設立など経済的要因も踏まえ、現在に続くイギリスとヨーロッパ関係の特質を浮彫りにする。

〔2008〕978-4-8158-0595-1

牧野雅彦著

## 国家学の再建

—イェリネクとウェーバー—

A5判・360頁・6,600円

政治指導における責任とは何か。イェリネクによって集大成されたドイツ国家学が先駆的に取り組んだ諸問題を引き受け、あらためてその再構成を試みたウェーバー。主権国家の枠組みが問い直される現在、ドイツ国家学の今日的意義を明らかにするとともに、二人の知的営為の核心に迫る。

[2008] 978-4-8158-0603-3

松森奈津子著

## 野蛮から秩序へ

—インディアス問題とサラマンカ学派—

A5判・402頁・5,000円

大航海時代を拓いたスペインにおいて、非ヨーロッパ地域の「野蛮」な人々との関係をめぐり支配の正当性などを問いかけ、新たな政治秩序を模索したサラマンカ学派。ラス・カサスにいたるその思想の展開を丹念に跡づけ、主権国家論に連なる近代の政治思想を見直す。サントリー学芸賞受賞

[2009] 978-4-8158-0612-5

今野 元著

## 多民族国家プロイセンの夢

—「青の国際派」とヨーロッパ秩序—

A5判・364頁・7,400円

激動の中東欧情勢下に活躍した親独派ポーランド人貴族の生涯を通じ、ナショナリズムの超克、多民族共生を志向した知られざるプロイセン王国の姿を描き出す。ドイツ帝国＝プロイセンの図式的理解を超え、ヨーロッパ史に新たな領野を切り拓く注目の成果。

[2009] 978-4-8158-0617-0

鮎京正訓編

## アジア法ガイドブック

A5判・442頁・3,800円

法整備支援プロジェクトで注目を浴び、社会主義法・イスラーム法・伝統法なども取り込みながら、多様な発展を示すアジア各国の法状況を、各国地域の法専門家が最新の情報にもとづき詳細に解説、アジア地域の法制度の展開をダイナミックに捉えた、わが国初の本格的ガイドブック。

[2009] 978-4-8158-0622-4

倉田 徹著

## 中国返還後の香港

—「小さな冷戦」と一国二制度の展開—

A5判・408頁・5,700円

香港は本当に中国に呑み込まれたのか？ 返還以前の多くの悲観的予測を裏切り、安定した中国—香港関係が生み出されたメカニズムを、一国二制度下の政治・経済・社会情勢の推移から明快に分析、「高度な自治」と中港融合の実像を鋭く描き出す。サントリー学芸賞受賞

[2009] 978-4-8158-0624-8

松浦正孝著

## 「大東亜戦争」はなぜ起きたのか

—汎アジア主義の政治経済史—

A5判・1092頁・10,000円

なぜ日本は「アジア解放の聖戦」という理念を掲げながら、アジア諸国を植民地とし侵略したのか。これまで誰も正視してこなかった松井石根と大亜細亜協会を中心とする汎アジア主義の視角から、「大東亜戦争」への道をトータルに読み解く。新たな歴史像を提示した渾身の力作。

[2010] 978-4-8158-0952-2

O. A. ウェスタッド著 佐々木雄太監訳 小川浩之／益田実／三須拓也／三宅康之／山本健訳

## グローバル冷戦史

—第三世界への介入と現代世界の形成—

A5判・510頁・6,600円

脱植民地化による第三世界の台頭は、超大国の命運をどのようにかえていったのか？ 冷戦の主要舞台であった第三世界諸国の苦闘と戦略的対応を縦横に叙述、超大国の蹉跎の真の原因を描き出す。第三世界から見た冷戦史の新たな全貌を示し、現代世界の諸問題の起源をも捉えた注目作。

[2010] 978-4-8158-0643-9

井上正也著

## 日中国交正常化の政治史

A5判・702頁・8,400円

「不同意の同意」へと至る20年の交渉を、台湾問題の決定的重要性や国内政治との相互連関を再評価して解明。友好史観、外的衝撃論、「二つの中国」政策論などの通説を正すとともに、激しい外交闘争と和解の模索の両面からその政策過程を捉え直す。サントリー学芸賞、吉田茂賞受賞

〔2010〕978-4-8158-0653-8

鮎京正訓著

## 法整備支援とは何か

A5判・364頁・5,600円

日本の法整備支援の15年にわたる経験と、アジア諸国法研究や比較法学の成果をもとに、被援助国の人々により役立つ制度・人づくりのシステム構築をめざす法整備支援学の挑戦を描く。日本の法整備支援をリードしてきた著者による、新たな知的国際支援の創造に向けた希望のメッセージ。

〔2011〕978-4-8158-0668-2

佐々木雄太著

## 国際政治史

—世界戦争の時代から21世紀へ—

A5判・336頁・2,800円

20世紀とはいかなる時代であったのか？ 帝国主義、二つの大戦、冷戦、地域紛争の惨禍を経験した激動の世紀の実像を手際よく描き出し、多元主義的な国際社会実現の可能性を考える。豊富な図版・資料とともに、現代の国際政治の流れを新たな叙述で描き切った信頼のテキスト。

〔2011〕978-4-8158-0671-2

藤波伸嘉著

## オスマン帝国と立憲政

—青年トルコ革命における政治、宗教、共同体—

A5判・460頁・6,600円

近代的な立憲主義のもとで、多民族多宗教の統合をいかにして果たすのか——。個人に基礎をおく憲法体制と民族的宗教的少数集団の権利主張とが鋭く対立する中での国民統合という、今なお解きがたい問題に果敢に挑戦したオスマン立憲政の試みを跡づけ、近現代の世界史像に修正を迫る力作。

〔2011〕978-4-8158-0683-5

等松春夫著

## 日本帝国と委任統治

—南洋群島をめぐる国際政治 1914-1947—

A5判・338頁・6,000円

「文明の神聖なる使命」とは——。帝国主義と新外交の狭間で生み出された、国際連盟による委任統治制度は、列強がせめぎあう太平洋に何をもたらしたのか。「仮装された植民地」として日本が支配した「南洋群島」を軸に、20世紀前半の国際政治と日本の対外政策の展開を描き出す。

〔2011〕978-4-8158-0686-6

中田瑞穂著

## 農民と労働者の民主主義

—戦間期チェコスロヴァキア政治史—

A5判・468頁・7,600円

多数のネイションを抱える大衆社会で「民主制」はいかに維持されたのか——。中欧の新興国として出発し議会制民主主義体制を安定化させた共和国が、経済危機と権威主義体制による競合という困難な時代を迎え、「実効力」ある独自の民主制を構想していく過程を、はじめて実証的に分析。

〔2012〕978-4-8158-0693-4

井口治夫著

## 鮎川義介と経済的国際主義

—満洲問題から戦後日米関係へ—

A5判・460頁・6,000円

日産自動車を創業し、日産財閥を満洲に移駐してその経済開発を担った男の、経済的自由主義のヴィジョンとは何か。統制経済と闘い、米国資本導入による日満の開発によって日米開戦回避のために死力を尽くした希代の経営者の活動を描く。サントリー学芸賞、企業家研究フォーラム賞受賞

〔2012〕978-4-8158-0696-5

アダム・スミスの会監修 水田洋／篠原久／  
只腰親和／前田俊文訳

## アダム・スミス 法学講義 1762～1763

A5判・450頁・6,600円

1762-63年にグラスゴー大学で行われたアダム・スミスの法学講義を手稿から再現。司法＝正義と統治の歴史を描き出し、自由で公正な社会を展望した壮大な文明史論にして、『道徳感情論』から『国富論』にいたるスミス思想を体系的に把握するために欠かせない文献。本邦初訳。

[2012] 978-4-8158-0699-6

毛里和子著

## 現代中国政治 [第3版]

—グローバル・パワーの肖像—

A5判・404頁・2,800円

建国60年、改革開放30年の激動をへて世界有数の大国へと変貌した中国。毛沢東から胡錦濤へと至る政治の変容を、長年の研究により包括的に叙述、かつてない繁栄を迎えたかに見える大国の新たな肖像を描きだす。大幅改訂による最新版。アジア・太平洋賞大賞、櫻田會特別功労賞受賞

[2012] 978-4-8158-0700-9

水島朋則著

## 主権免除の国際法

A5判・352頁・7,600円

主権平等原則の下、国家が他の国家の裁判権に属することはしないとする主権免除の国際法は、国連条約の採択、国内法の整備により変動期を迎えている。基地問題や戦後補償問題にも影響を及ぼす重要問題を、私人の請求処理など看過されてきた論点を踏まえて分析する。安達峰一郎記念賞受賞

[2012] 978-4-8158-0716-0

吉田真吾著

## 日米同盟の制度化

—発展と深化の歴史過程—

A5判・432頁・6,600円

世界最高水準の高度な制度化を実現した二国間同盟は、いかにして生まれたのか？ 日米初の安全保障協議の設置からガイドラインの策定へと至る軌跡を、新たな水準の実証分析と最新の同盟理論をもとに解明、自主防衛路線と日米同盟路線の相克として描いてきた通説を書きかえる注目の成果。

[2013] 978-4-8158-0717-7

飯山雅史著

## アメリカ福音派の変容と政治

—1960年代からの政党再編成—

菊判・456頁・6,600円

宗教右派が呼び起こした政治的うねりは、はたして米国でどれほどの力をもってきたのか。エピソードで語られがちな政治と宗教の関係を、保守的教派と政党対立構造の変化のダイナミズムを焦点に、長期にわたる統計分析によって客観的に把握し、米国の今後を展望した画期的労作。

[2013] 978-4-8158-0734-4

将基面貴巳著

## ヨーロッパ政治思想の誕生

A5判・324頁・5,500円

権力と相互依存、暴政と同意など、「ヨーロッパ文化」の形成とともに聖俗の間から立ち上がった、「政治」をめぐる知の営みは、いかなる特質をもち、どのように展開したのか。現実の政治状況に応答するなか、諸伝統から発展を遂げた思想の形を、明快に描き出す。サントリー学芸賞受賞

[2013] 978-4-8158-0738-2

末近浩太著

## イスラーム主義と中東政治

—レバノン・ヒズブッラーの抵抗と革命—

A5判・480頁・6,600円

暴力と平和、過激と穏健——真実はどこにあるのか。「自爆テロ」から民主政治まで多様な貌をもつイスラーム主義組織「ヒズボラ」の、知られざる実像を初めて明らかにし、激動するレバノン政治・中東政治・国際政治のダイナミクスを深部から描き出す。地域研究コンソーシアム賞受賞

[2013] 978-4-8158-0750-4

山岸敬和著

南山大学学術叢書

## アメリカ医療制度の政治史

—20世紀の経験とオバマケア—

A5判・376頁・4,500円

オバマケアの挑戦——豊かなはずのアメリカでなぜ国民皆保険の実現が難しいのか。国のあり方と切り結ぶ医療制度の展開を歴史的にたどるとともに、現在のオバマ改革をめぐる動きと葛藤を、現地の多様な「声」からヴィヴィッドに捉え、アメリカ政治と医療の行方を展望する力作。

〔2014〕978-4-8158-0769-6

三牧聖子著

## 戦争違法化運動の時代

—「危機の20年」のアメリカ国際関係思想—

A5判・358頁・5,800円

国際関係を権力闘争に還元する見方も、「悪」の侵略国に対する「善」なる制裁という見方も説得力を失った。合衆国における戦争違法化思想をトータルに跡づけ、忘却された戦間期のラディカルな展開を再考することで、国際秩序の新たな可能性を探る。**アメリカ学会清水博賞受賞**

〔2014〕978-4-8158-0782-5

林 載恒著

## 人民解放軍と中国政治

—文化大革命から鄧小平へ—

A5判・254頁・5,500円

文化大革命への解放軍の介入はいかにして起こり、その後の中国政治に何をもたらしたのか。毛沢東の役割、林彪事件、中越戦争の理解を一新、改革開放に向けた大転換の知られざる道筋を示した、気鋭の著者による画期的論考。**アジア・太平洋賞特別賞、発展途上国研究奨励賞受賞**

〔2014〕978-4-8158-0786-3

稲吉 晃著

## 海港の政治史

—明治から戦後へ—

A5判・400頁・5,800円

横浜・神戸に代表される国際貿易港から全国の中小港湾まで、帝国日本を世界と結んだ海港はいかにして形成されたのか。開港から戦後に至る史的展開を示しつつ、港湾整備の知られざる難題を別出、日本の交通インフラ整備が抱える政治的課題をも浮き彫りにした近代海港史。**藤田賞受賞**

〔2014〕978-4-8158-0789-4

福田真希著

## 赦すことと罰すること

—恩赦のフランス法制史—

A5判・384頁・6,400円

古代・中世から絶対王政・フランス革命を経て共和制期に至るまで、政体の如何を問わず実質的に存続した恩赦。「主権の証」とも見なされるその権利は、各時代の諸勢力とどのような関係を結んだのか。法制・思想・実態の視点から恩赦の歴史を跡づけ、刑罰中心の権力観を刷新する意欲作。

〔2014〕978-4-8158-0790-0

川島正樹著

## アフーマティヴ・アクションの行方

—過去と未来に向き合うアメリカ—

A5判・240頁・3,200円

差別なき公正な社会の実現は可能なのか。奴隷制が横行した植民期から、「黒人初の大統領」であるオバマの就任まで、「人種」問題を軸に400年にわたる米国史をコンパクトに一望し、数々の困難を抱えた積極的差別は正措置の現実と将来を描き出す。

〔2014〕978-4-8158-0791-7

ロバート・D. エルドリッチ著 吉田真吾／中島琢磨訳

## 尖閣問題の起源

—沖縄返還とアメリカの中立政策—

A5判・378頁・5,500円

東アジアを揺るがす危機の核心とは何か。日本、米国、国府、中国、そして民間アクターの複雑な動きを詳細に叙述、沖縄返還と米国の中立政策の影響を軸に、尖閣が妥協の困難な領土問題として浮上する過程を鮮明に描き出す。**大平正芳記念賞、国研研日本研究賞奨励賞受賞**

〔2015〕978-4-8158-0793-1

近藤則夫著

## 現代インド政治

—多様性の中の民主主義—

A5判・608頁・7,200円

12億の人口を抱え、民族・宗教的にも経済的にも多様なインドはどのように動いているのか？ インドの政治は、実は経済成長以上の驚異である。独立から現在までの民主主義体制の構造変化を軸に、巨大で複雑な全体像を、叙述的分析と統計的分析によって描いた待望の著作。**櫻山純三賞受賞**  
〔2015〕978-4-8158-0794-8

塩出浩之著

## 越境者の政治史

—アジア太平洋における日本人の移民と植民—

A5判・524頁・6,300円

北海道・樺太へ、ハワイ・満洲・南北アメリカへ——。日本人移民の政治統合は、日本およびアジア太平洋地域の秩序にどのようなインパクトをもたらしたのか。移民史・政治史の盲点を克服し、新たな全体像を描いた労作。**毎日出版文化賞**、**サントリー学芸賞**、**角川源義賞受賞**  
〔2015〕978-4-8158-0820-4

渡辺将人著

## 現代アメリカ選挙の変貌

—アウトリーチ・政党・デモクラシー—

A5判・340頁・4,500円

米国政治は選挙で動く。コンサルタント主導のメディア戦略では手の届かなかった多様な人々をいかにして掴んでいくか。オンライン技術とともに新たな潮流が展開する選挙民対策の現場から、デモクラシーの進展と分裂の可能性とともに孕んだ米国選挙の現在を浮彫りに。**大平正芳記念賞受賞**  
〔2016〕978-4-8158-0824-2

毛里和子／毛里興三郎訳

## ニクソン訪中機密会談録〔増補決定版〕

四六判・354頁・3,600円

機密文書公開、そして検閲解除——。日本は、アジアは、世界は？ 今日の中米関係の始まりとなった、毛沢東、周恩来、ニクソン、キッシンジャーによる世紀の外交交渉の全貌！ 黒塗りだった箇所を初めて邦訳し、新たに公開された資料を増補するとともに、詳細な解説を加えた決定版。  
〔2016〕978-4-8158-0843-3

岡田 勇著

## 資源国家と民主主義

—ラテンアメリカの挑戦—

A5判・396頁・6,800円

民主体制下で繰り返される紛争と抗議運動をのりこえ、発展への合意を導くカギとは？ 資源ブームが引き起こした人々の政治参加の核心を、歴史的・構造的に解明、「資源の呪い」などをめぐる通説を斥け、根源的に考察。**発展途上国研究奨励賞**、**ラテン・アメリカ政経学会研究奨励賞受賞**  
〔2016〕978-4-8158-0848-8

六鹿茂夫編

## 黒海地域の国際関係

A5判・422頁・6,300円

西欧・ロシア・中東の狭間に位置し、歴史上つねに国際政治の焦点だった黒海。冷戦後のEU／NATOとロシアの綱引きの中、紛争や跨境性を伴いつつトルコ、ウクライナ、ジョージア、バルカン諸国等が織りなす地域の動態を、外交・経済から宗教まで多面的に分析、その全体像を描き出す。  
〔2017〕978-4-8158-0863-1

真崎 翔著

## 核密約から沖縄問題へ

—小笠原返還の政治史—

A5判・268頁・4,500円

小笠原返還は戦後日米関係の小さなエピソードではない。沖縄の基地問題に影を落としたその実像をアメリカの核戦略の変容を手がかりに解明、二つの返還と核密約の連関をトータルに捉え、日米の非対称な交渉過程がもたらした沖縄問題の知られざる起源を照射。**日本島嶼学会研究奨励賞受賞**  
〔2017〕978-4-8158-0871-6

ハンナ・ピトキン著 早川誠訳

## 代表の概念

A5判・426頁・5,400円

政治における代表とは何か。選挙で選ばれたことか、権威を有することか、それとも国民の構成を反映していることか。「代表 (representation)」の語義に立ち戻り、ホプズの議論から自由主義まで、思想の土台より政治的代表的意味を検討し、代表論の古典となった名著、待望の翻訳。

[2017] 978-4-8158-0892-1

井口治夫著

## 誤解された大統領

—フーヴァーと総合安全保障構想—

A5判・422頁・5,800円

大恐慌への対応を批判され、無能とされた大統領。しかし人道支援・環境保護などの先駆的政策は、今日狭く理解されがちな「人間の安全保障」の源流でもある。共和党右派、マッカーサー、アイゼンハワーなどの米国政治の群像を鮮やかに捉え、日本の占領政策にも新たな光を投げかける。

[2018] 978-4-8158-0904-1

宮崎洋子著

## 「テロとの闘い」と日本

—連立政権の対外政策への影響—

A5判・382頁・5,400円

湾岸戦争の教訓を胸に、補給支援などの協力に乗り出した日本が、米国の圧力を受けながらも、主要同盟国にくらべ抑制的な関与にとどまりえた理由とは何か。連立小政党の機能からそのメカニズムを解明、国際／国内政治の運動をとらえ、「テロとの闘い」の十年を初めて包括的に描き出す。

[2018] 978-4-8158-0917-1

大久保明著

## 大陸関与と離脱の狭間で

—イギリス外交と第一次世界大戦後の西欧安全保障—

A5判・532頁・6,800円

平和を維持する仕組みはどのように構想され、なぜ脆弱化したのか？ 国際連盟を含む複数の安全保障観やヨーロッパ派と帝国派のせめぎ合い等のなか、西欧への関与の揺らぐイギリスの外交姿勢と諸国との交渉過程を、膨大な史料から精緻に描き出し、現在への示唆に富む気鋭による力作。

[2018] 978-4-8158-0918-8

西 平等著

## 法と力

—戦間期国際秩序思想の系譜—

A5判・398頁・6,400円

「国際法 vs 現実政治」を超えて——。第一次世界大戦後の国際法学の中から「国際政治学」的思考は誕生した。(国際紛争は裁判可能なか) という国際連盟期の最重要課題を軸に、法と力の関係を捉える諸学説の系譜をたどることで、モーゲンソーや E. H. カーらの思想を位置づけ直す。

[2018] 978-4-8158-0919-5

今野 元著

## 吉野作造と上杉慎吉

—日独戦争から大正デモクラシーへ—

A5判・484頁・6,300円

「民本主義」対「国家主義」の単純な枠組みに収まりきらない、近代社会科学最大のライバルの共通基盤と真の分水嶺はどこにあったのか。ドイツ経験などの見過ごされた契機も手掛かりに、近代日本政治の現実の焦点を捉え、デモクラシーと帝国をめぐる議論に新たな地平を拓く。

[2018] 978-4-8158-0926-3

鶴田 綾著

## ジェノサイド再考

—歴史のなかのルワンダー—

A5判・360頁・6,300円

1994年の悲劇を導いた力学は、「多数派部族による少数派の虐殺」という標準的な解釈では捉えきれない。脱植民地化から体制の転換を経て内戦へと向かう複雑な過程を、国際的な文脈に置きなおして丹念にたどり、その深奥から理解を一新する意欲作。日本アフリカ学会研究奨励賞

[2018] 978-4-8158-0931-7

清水 麗著

## 台湾外交の形成

—日華断交と中華民国からの転換—

A5判・344頁・5,400円

「一つの中国」の原則と、国際社会での地位存続との板挟みの中で、台湾は何を選択してきたのか。安全保障をめぐる米国との交渉、国連の中国代表権問題、日中国交回復とその裏での対日断交などを、台湾側の動向を軸にたどり、今日の台湾外交の真の根源を探る。**アジア・太平洋賞特別賞受賞**  
〔2019〕978-4-8158-0935-5

森際康友編

## 法曹の倫理 [第3版]

A5判・466頁・3,800円

考え方の「なぜ」を体系的に学べる法曹倫理の決定版テキスト、好評第3版。グローバル化とともに拡大・多様化する法務の実態を反映して記述を一新し、諸外国の法制にも目を配りつつ、良き法曹のあり方を原理に遡って考える。法科大学院「法曹倫理コアカリキュラム」完全準拠。  
〔2019〕978-4-8158-0958-4

西山真司著

## 信頼の政治理論

A5判・726頁・8,800円

市民社会と国家を媒介する概念と見なされる「信頼」——。良好な政治のミクロな指標として注目を集める一方、従来の信頼論が前提とする認識論やアプローチは深刻な問題を抱えている。ソーシャル・キャピタル論へ至る学説を乗り越えた先に、革新的な政治理論を導き出す気鋭の力作。  
〔2019〕978-4-8158-0960-7

佐藤 創著

南山大学学術叢書

## 試される正義の秤

—南アジアの開発と司法—

A5判・298頁・5,400円

文字も読めない社会的弱者の権利を守り、裁判所みずから正義を届けるべく始まった公益訴訟。インド経済の急速な発展のもと、司法の恣意的利用をも惹起したその両義的性格を捉え、南アジア法の最大の特徴に迫りつつ、政治の司法化をめぐる世界的潮流をも示す。**発展途上国研究奨励賞受賞**  
〔2020〕978-4-8158-0976-8

代田清嗣著

## 徳川日本の刑法と秩序

A5判・386頁・6,300円

江戸の裁きにおいて、罰せられるべき者はいかにして決まったのか。具体的な判例から江戸期固有の法理を探り出し、西洋法を規範とする刑法観を塗り替えるとともに、幕政を基礎づけた統治原則をも浮き彫りにする。今日に及ぶ日本人の法観念への新たな理解を開く力作。  
〔2020〕978-4-8158-0980-5

谷口美代子著

## 平和構築を支援する

—ミンダナオ紛争と和平への道—

A5判・392頁・6,300円

15万人に及ぶ犠牲者を出し、日本も関わるアジアの代表的地域紛争の和平をいかに実現すべきか。分離独立紛争とその影に隠れた実態を解明、外部主導の支援の限界を示して、現地社会の視点をふまえた平和構築のあり方を考える。**アジア・太平洋賞特別賞、国際開発研究大来賞、国際開発学会奨励賞受賞**  
〔2020〕978-4-8158-0985-0

本部勝大著

## 租税回避と法

—GAARの限界と解釈統制—

A5判・336頁・7,200円

スターバックスやアップル、グーグル等、名だたるグローバル企業が行い、世界的に問題化した租税回避行為をいかに抑止すべきか。各国で導入が進むGAARの効果と限界を浮彫りにし、岐路に立つわが国がとるべき道を、GAARにかわる第三のアプローチとともに提示。**租税法学会賞受賞**  
〔2020〕978-4-8158-0999-7

中兼和津次著

## 毛沢東論

—真理は天から降ってくる—

四六判・438頁・3,600円

その男は中国に何をもたらしたのか——。大躍進政策や文化大革命によって大量の犠牲者を出しながら、現在なお大陸で英雄視される稀代の指導者。「秦の始皇帝+マルクス」とも言われる、その思想と行動を冷静かつ大胆に分析。中国経済研究をリードしてきた碩学が、現代中国の核心に迫る。  
〔2021〕978-4-8158-1023-8

五十嵐隆幸著

## 大陸反攻と台湾

—中華民国による統一の構想と挫折—

A5判・400頁・5,400円

大陸奪還と中国統一を目標に展開された軍事・外交政策の実像とその変容を初めて解明。今日の東アジア国際政治の最大の焦点となっている台湾海峡危機の全体像を歴史的視野で描き出す。**大平正芳記念賞、地域研究コンソーシアム賞、猪木正道賞、国際安全保障学会最優秀出版奨励賞受賞**  
〔2021〕978-4-8158-1034-4

毛里和子著

## 現代中国 内政と外交

A5判・240頁・3,600円

世界政治の焦点——。強勢外交と権威主義政治は切り離せない。グローバル大国化した中国の内政と外交を同時にとらえ、国家資本主義から「周縁」問題まで、両者のネクサスに照準を合わせつつ、革命後の70年をふまえて現在の姿を浮き彫りにした、第一人者によるエッセンシャルな一冊。  
〔2021〕978-4-8158-1035-1

庄司智孝著

## 南シナ海問題の構図

—中越紛争から多国間対立へ—

A5判・344頁・5,400円

中国の急速な台頭により国際政治の焦点となった危機の構造を、主要な当事者であるベトナム・フィリピンやASEANの動向をふまえて解明、非対称な大国と向きあう安全保障戦略をとらえ、米中対立の枠組みにはおさまらない紛争の力学を浮かび上がらせる。**大平正芳記念賞受賞**  
〔2022〕978-4-8158-1054-2

西 平等著

## グローバル・ヘルス法

—理念と歴史—

A5判・350頁・5,400円

国際的な保健協力が目指す「健康」とはなにか。その実現のために、どのような法や制度が創出されてきたのか。従来の国際法学を超えて、「社会医学」と「生物医学」の対抗関係を軸に、現在のWHOにいたるグローバルな「健康」体制のあり方を問い直す。パンデミックの時代に必読の書。  
〔2022〕978-4-8158-1056-6

サラ・ロレンツィーニ著 三須拓也／山本健児

## グローバル開発史

—もう一つの冷戦—

A5判・384頁・3,400円

開発はなぜ、いかにしてなされたのか。米・ソ・欧・中の対抗関係を軸にした実践と、国際機関や私的アクターの国境をこえた活動を描き出し、旧植民地・途上国との相克も視野に、20世紀初頭の「開発」の誕生から冷戦後までの、無数の思惑が交錯する複雑な歴史をトータルに把握する。  
〔2022〕978-4-8158-1090-0

榎本 修著

## ローヤリングの考え方

—法律相談・受任から交渉・ADRまで—

A5判・332頁・3,200円

ネットに法情報があふれるこの時代、弁護士に求められる能力とは何か。依頼者の「納得」に欠かせない弁護士実務の基礎的技能を、その「考え方」からとらえなおした決定版。全場面で役立つ実践的スキルとともに、経験則をこえて成長のための道標を体系的に示す。  
〔2022〕978-4-8158-1093-1

王 学士著

## モラル・リスクと保険

—詐欺請求をめぐる失権法理の展開—

A5 判・454 頁・8,800 円

不実申告・過大請求から保険金殺人まで、急増するモラル・リスクをいかに抑止すべきか。日本での 2008 年保険法制定による変化を踏まえ、詐欺請求時に給付免責が可能とする法理と、その場合の判断基準について、同様の問題を抱えた英米豪での判例・学説も精査し、初めて明確に提示。

〔2022〕978-4-8158-1098-6

高橋力也著

## 国際法を編む

—国際連盟の法典化事業と日本—

A5 判・546 頁・9,000 円

大国中心の法創造プロセスに風穴をあけた国際連盟の法典化事業。特に積極的な貢献をみせた日本を軸に、失敗とされたハーグ会議の意義を再評価、国益の追求にとどまらない法律家の実像を活写し、国際法の歴史を外交史的視点もふまえて描き直す。**安達峰一郎記念賞、大平正芳記念賞受賞**

〔2023〕978-4-8158-1111-2

李 昊著

## 派閥の中国政治

—毛沢東から習近平まで—

A5 判・396 頁・5,800 円

公式には存在を否認されながら、権力闘争や政策論争の展開を根本で規定してきた中国共産党の派閥集団。その隠れた実態とダイナミズムをクリアに描出し、建国以前から文化大革命や改革開放を経て現在に至る流れを新たな視点で再解釈する。権威主義体制において派閥が担う真の役割とは？

〔2023〕978-4-8158-1131-0

鄭 黄燕著

## 都市化の中国政治

—土地取引の展開と多元化化する社会—

A5 判・268 頁・5,400 円

改革と開放後、独自の不動産市場の展開に伴い都市空間の急拡大をみた中国において、都市と農村で分断された従来の社会構造がいかに変容したのかを、徹底したフィールド調査で解明。土地収用による一方的収奪を超えた農村のしたたかな対応も捉え、今日に及ぶ政治経済の核心的問題に迫る。

〔2023〕978-4-8158-1133-4

茅根由佳著

## インドネシア政治とイスラーム主義

—ひとつの現代史—

A5 判・282 頁・5,800 円

多様な宗教を包摂する「民主化の成功国」で、「不寛容」とされるイスラーム主義者の系譜がなぜ人々を糾合できたのか。デモクラシーと排他性の間で揺れてきた彼らの活動を軸に、インドネシアにおける政治と宗教のダイナミズムを独立期から SNS 時代まで総体的に捉え直した、俊英の力作。

〔2023〕978-4-8158-1134-1

川村陶子著

## 〈文化外交〉の逆説をこえて

—ドイツ対外文化政策の形成—

A5 判・552 頁・5,400 円

文化交流への国家の関与という、内外・硬軟が交差する繊細な領域の分析枠組みを示すとともに、冷戦期に発展したドイツの先端的とりくみに注目。ナチの過去や東西競争、外国人問題を背景とする政策形成過程と具体的実践をつぶさに検証し、現代日本の文化運営にも示唆を与える意欲作。

〔2024〕978-4-8158-1147-1

潘 亮著

## 日本の国連外交

—戦前から現代まで—

A5 判・806 頁・9,000 円

時代やテーマによる分断をこえ、複雑多岐にわたる国連外交の軌跡を一貫した視座で把握。連盟以降の国際秩序をめぐる構想から、「東西の架け橋」役や紛争調停の実態、組織運営・予算・PKO への貢献まで、冷戦や国内世論といった文脈も含めトータルに論じ尽くす、未到の通史。

〔2024〕978-4-8158-1148-8